

推奨播種量でコスト削減、収量UP！

概要 Abstract

平成31年指導参考事項「オホーツクおよび根釧地域における牧草播種機を利用した夏播種条件下でのチモシー主体草地安定造成のための播種量」を十勝で現地実証

混播比率は農家慣行のまま

慣行のチモシー(TY)2.0kg/10aを推奨播種量TY1.0~1.2kg/10aにすることで

- ①播種量半減でも、草地更新可能
- ②播種翌年収量が増収、1番草倒伏低下
- ③3年目以降も慣行並に維持

地域	播種量 (kg/10a)		
	TY	AL	WC
オホーツク (北見内陸)	1.0~1.4	0.2	0.1
根釧	1.2~1.8	0.5	0.2

成果 Results

①TY1.0kg/10a でも草地更新可能

チモシー単播播種の事例(上士幌町：2019年7月31日播種)



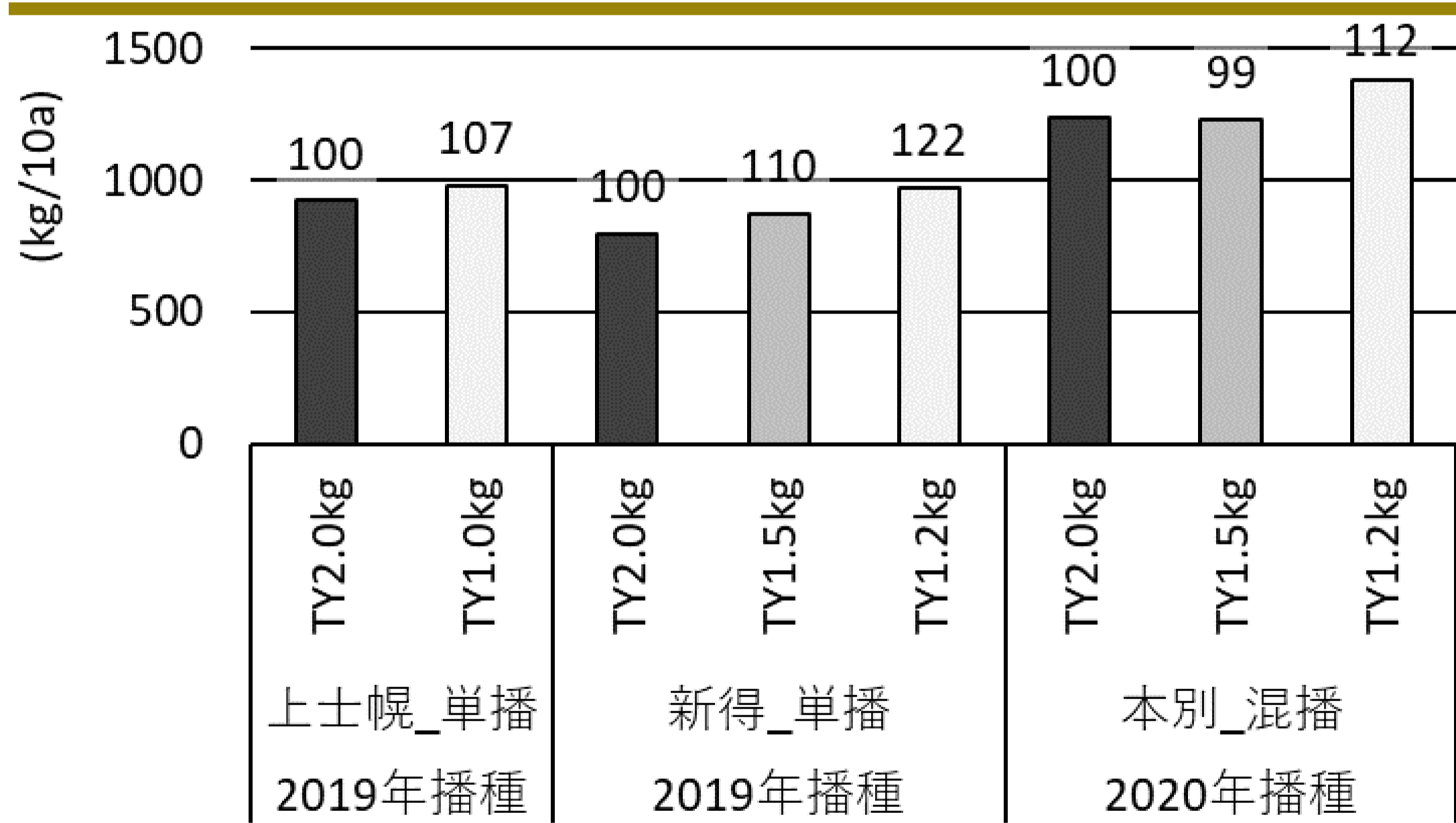
TY1.0kg/10a TY2.0kg/10a

播種量別越冬前生育 (適期適正播種した5圃場平均)

TY播種量 (/10a)	事例数	定着時 ¹⁾		越冬前 ²⁾		
		個体数 (/m ²)	個体数 (/m ²)	個体茎数 (本)	茎数 (本/m ²)	TY被度 (%)
2.0kg(慣行)	4	2881 a	1547 a	2.7 b	4038 a	81
1.4-1.6kg	6	1689 b	1220 a	2.7 b	3251 b	76
1.0-1.2kg	5	1329 b	798 b	3.9 a	3043 b	76

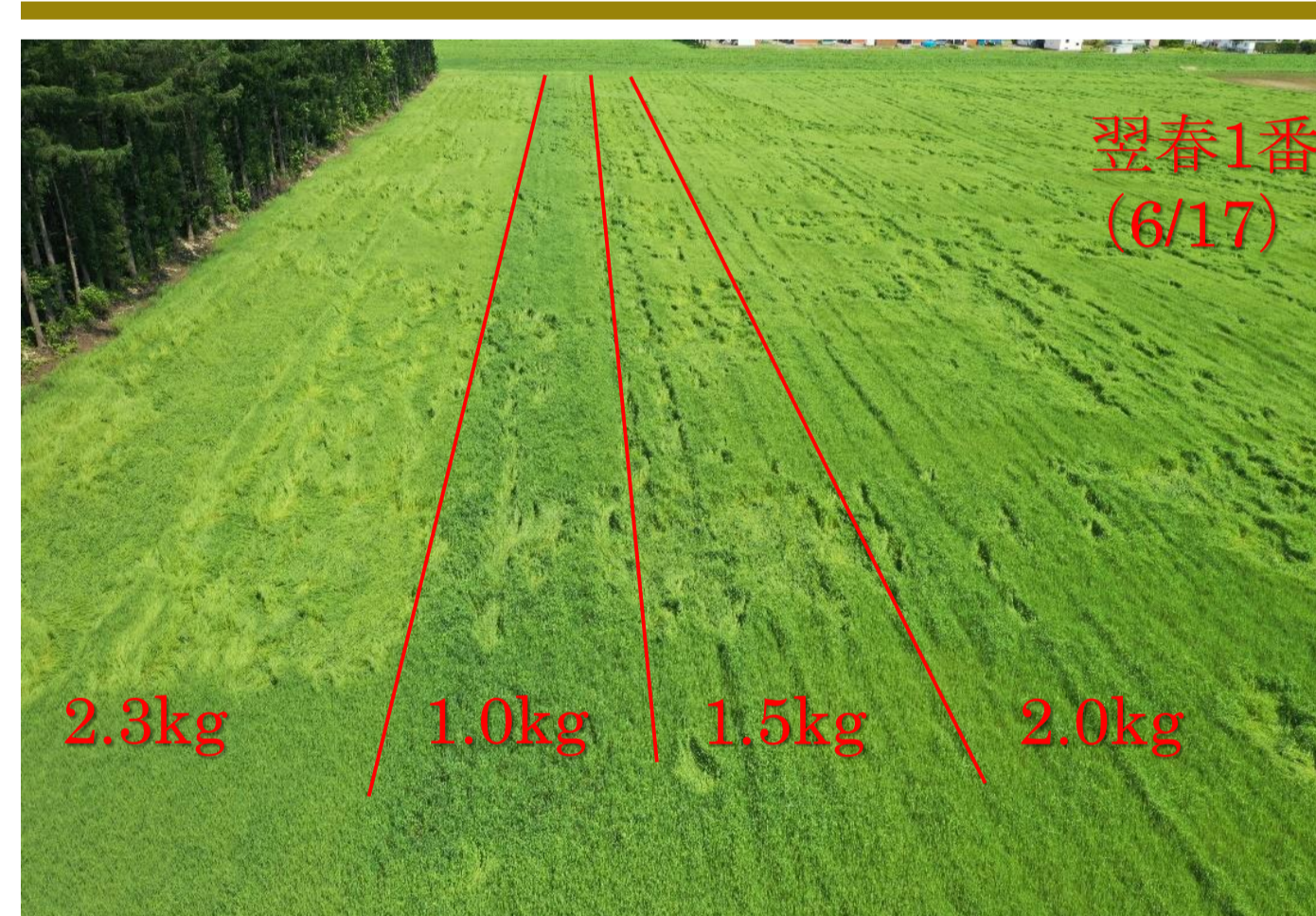
1) 播種後1ヶ月前後に調査
2) 播種年11月上旬に調査
3) 異文字間有意差あり (Tukey-Kramer test, p<0.05)

②-1 播種翌年、年間乾物収量が増収

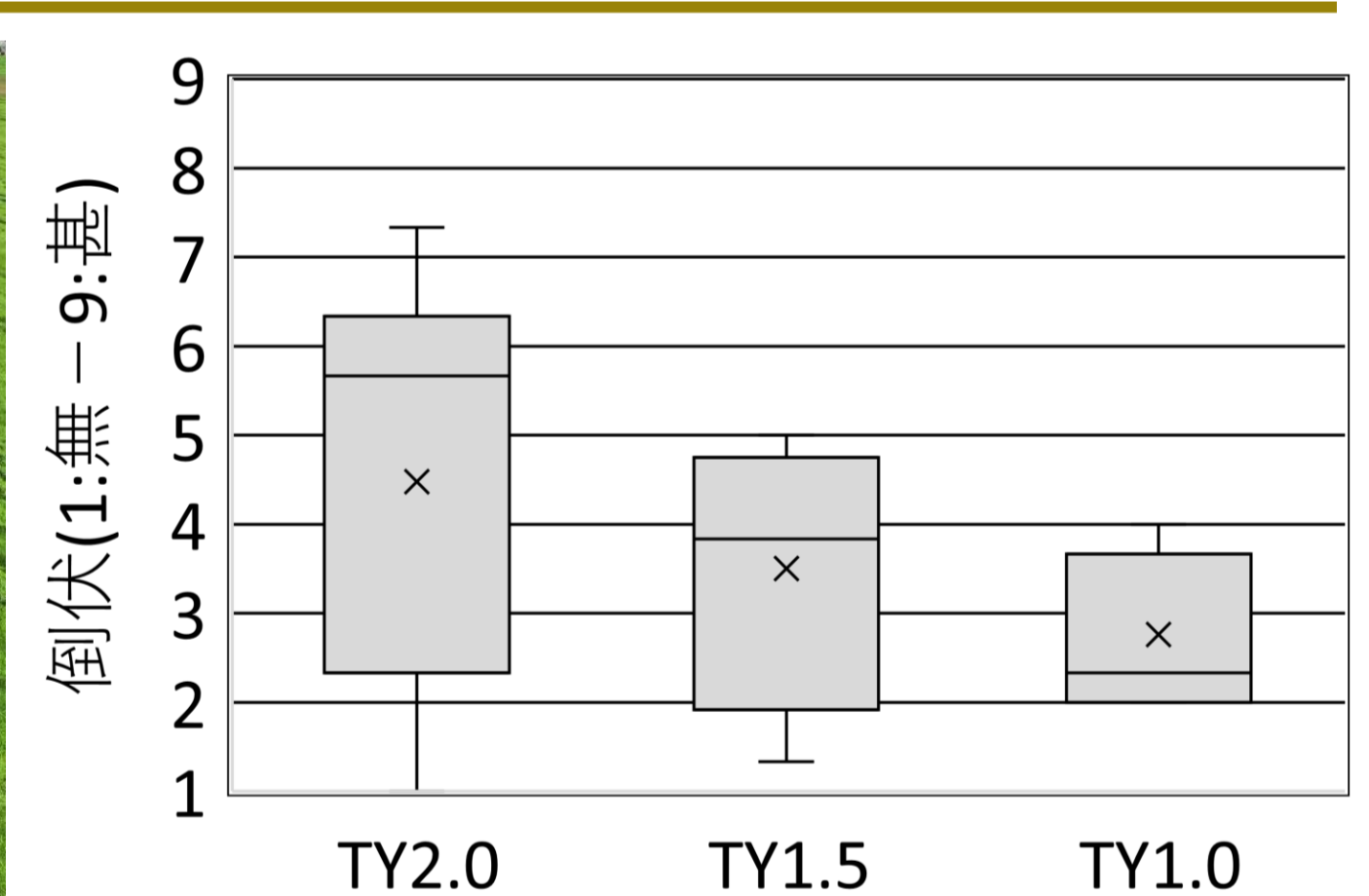


適期適正播種した事例では、慣行TY2.0kg/10aに比べTY1.0-1.2kg/10aで多収

②-2 播種翌年、1番草の倒伏低下

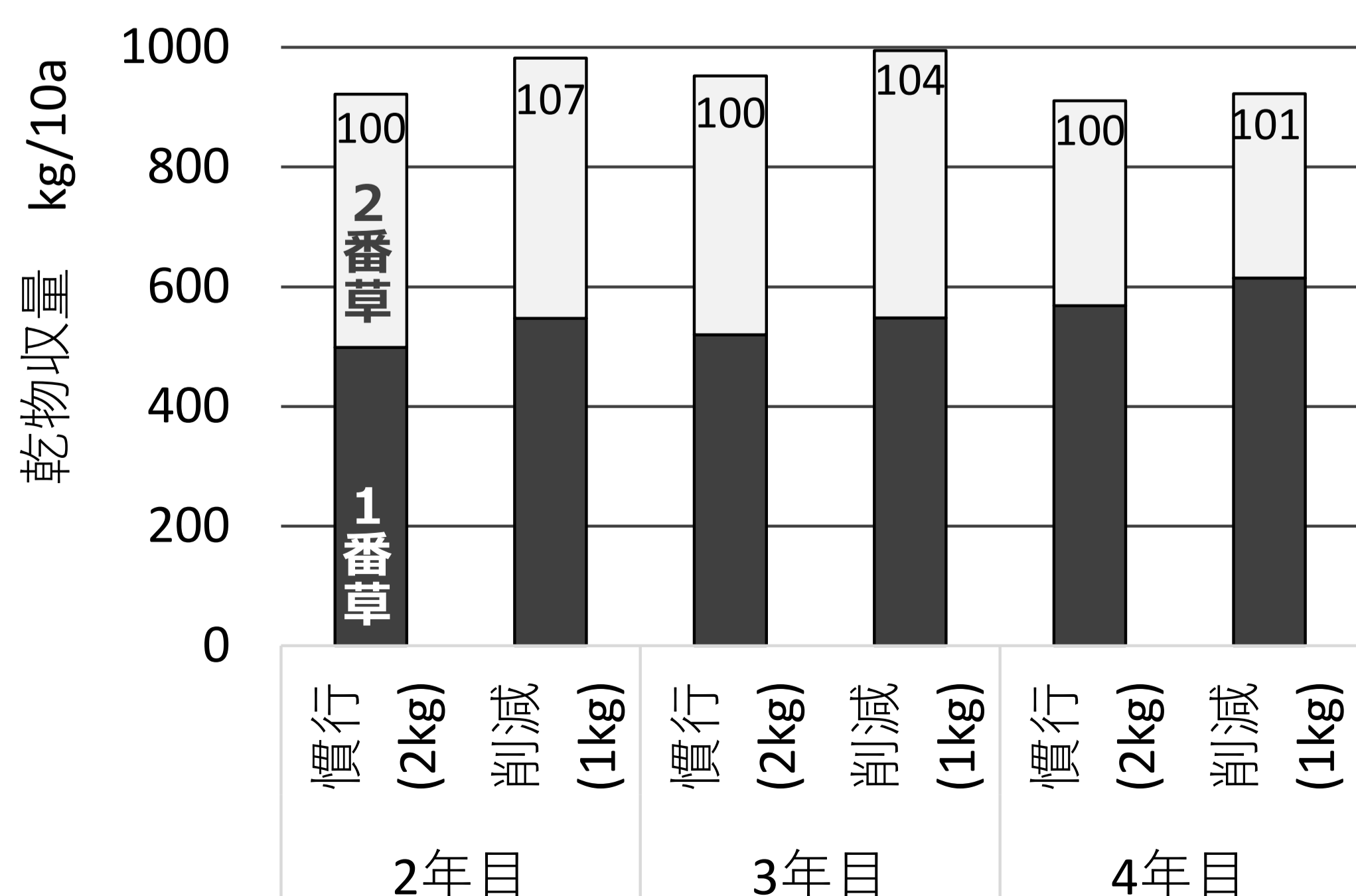


TY播種量1.0kg/10aで1番草倒伏が少ない(2021年播種上士幌)

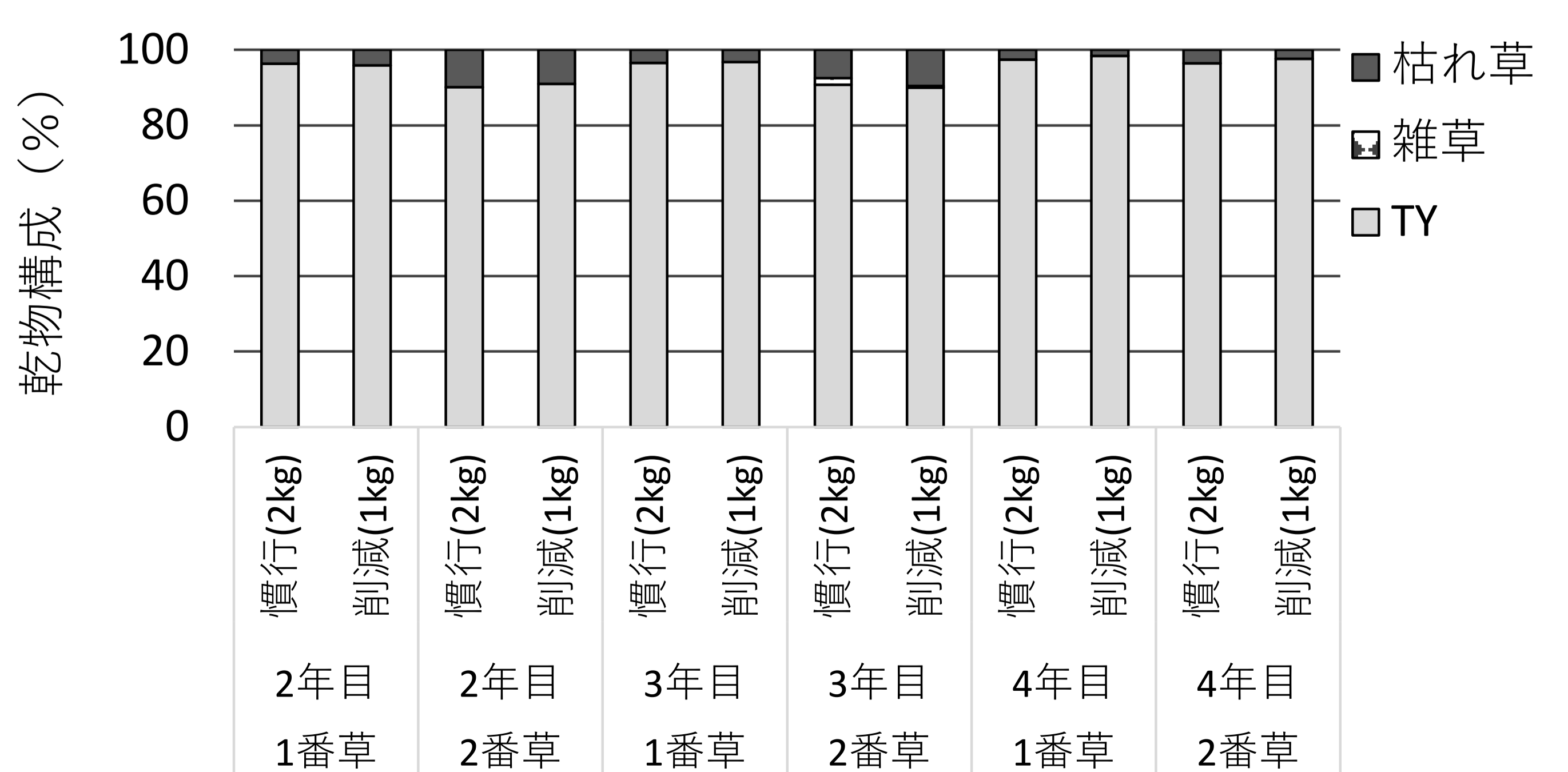


TY播種量が少ないほど、倒伏が少ない傾向 (倒伏の発生した6圃場)

③3年目以降も収量は慣行以上、TY率も慣行と遜色なく維持 (上士幌2019年播種の事例)

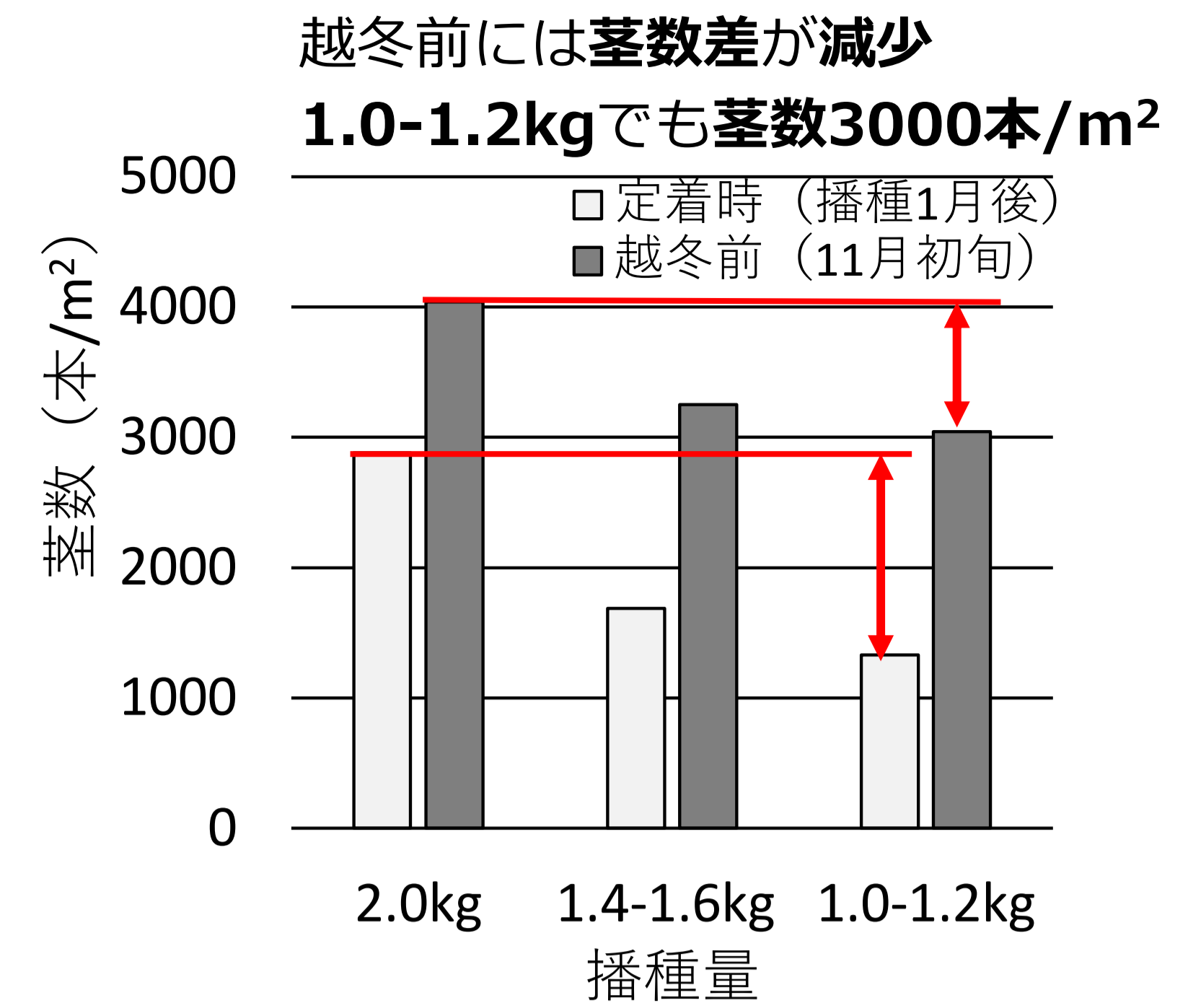
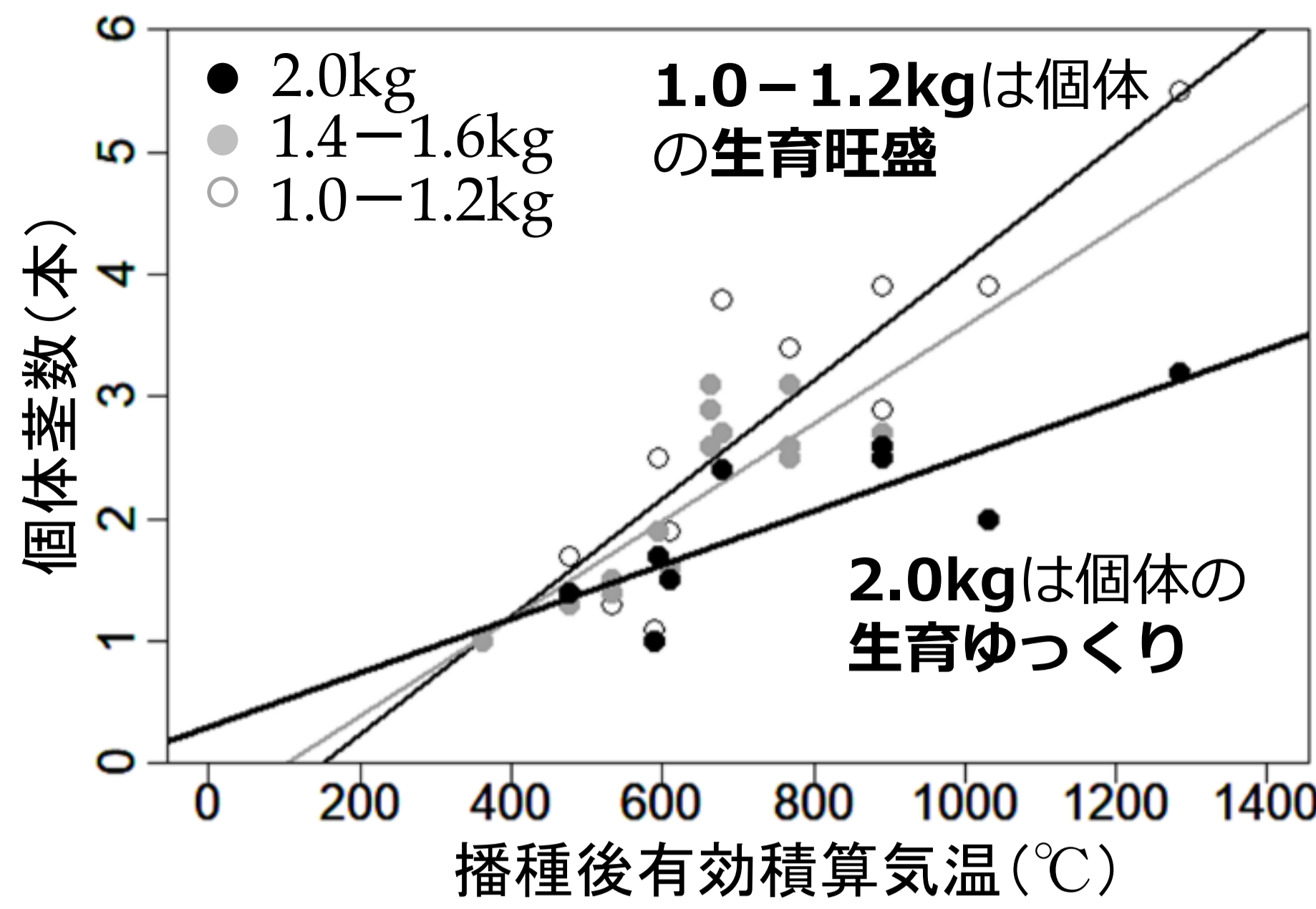
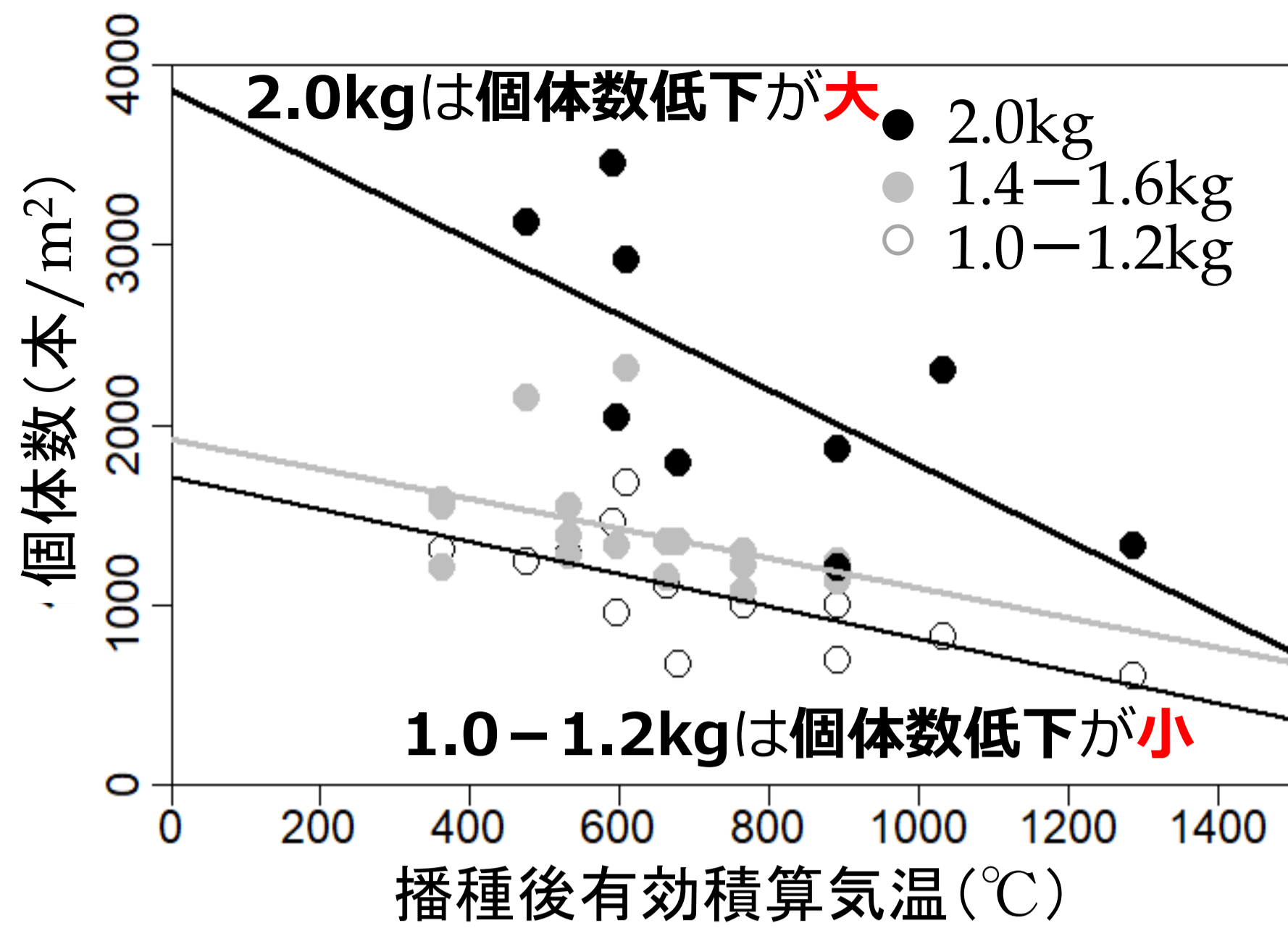


TY1.0kg/10aで播種後3~4年目も収量は慣行以上



播種後4年目もチモシー主体草地を維持

どうして播種量をへらせるの？



適期適正に播種した5圃場のデータ（播種年越冬前の生育）

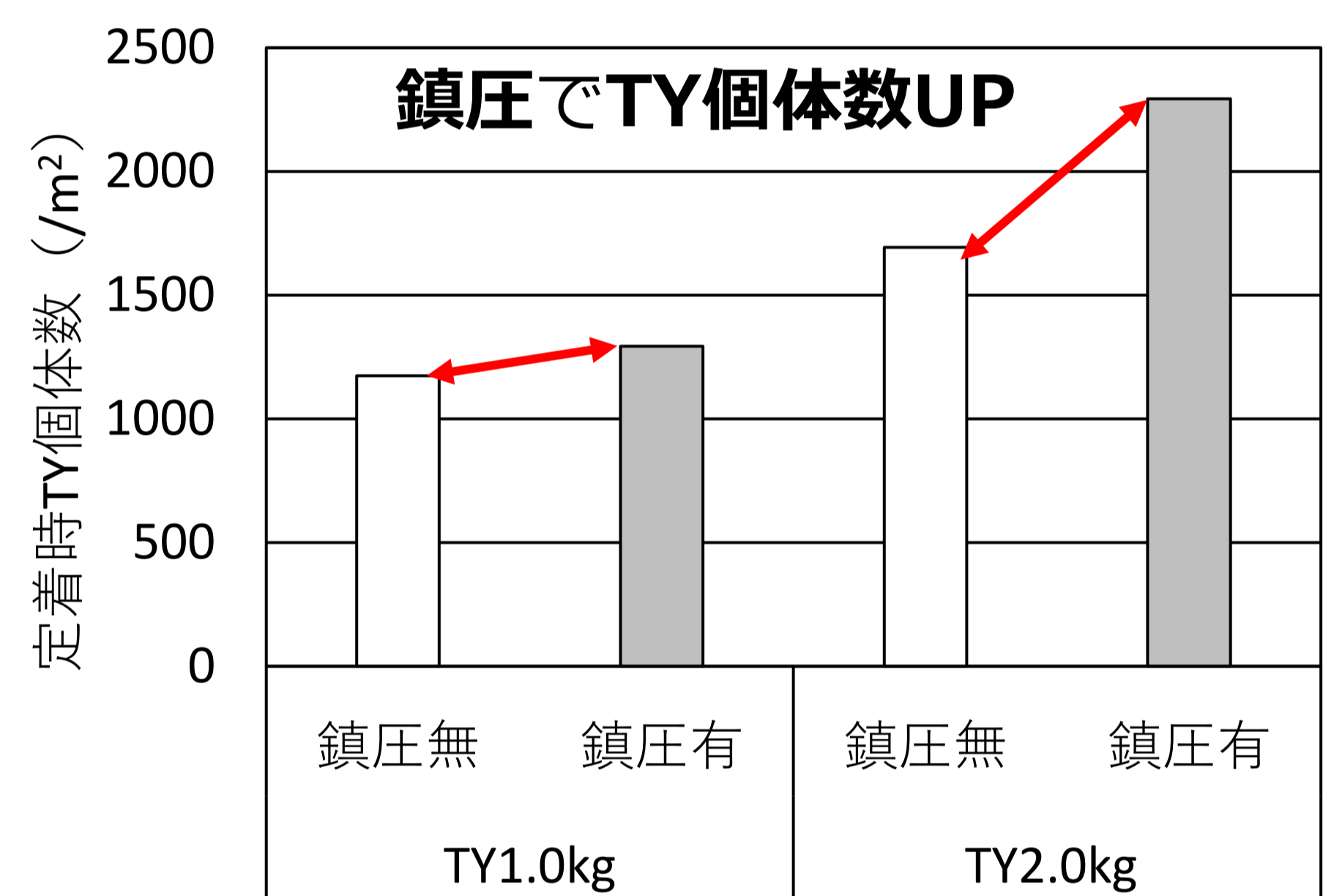
推奨播種量（TY1.0-1.2kg/10a）は
個体間競争が少なく、個体数の低下が小さい。個体の生育が旺盛で個体茎数も多い。
越冬前には慣行播種（TY2.0kg/10a）との茎数差が減少

適正な更新作業は大切

鎮圧は大切！

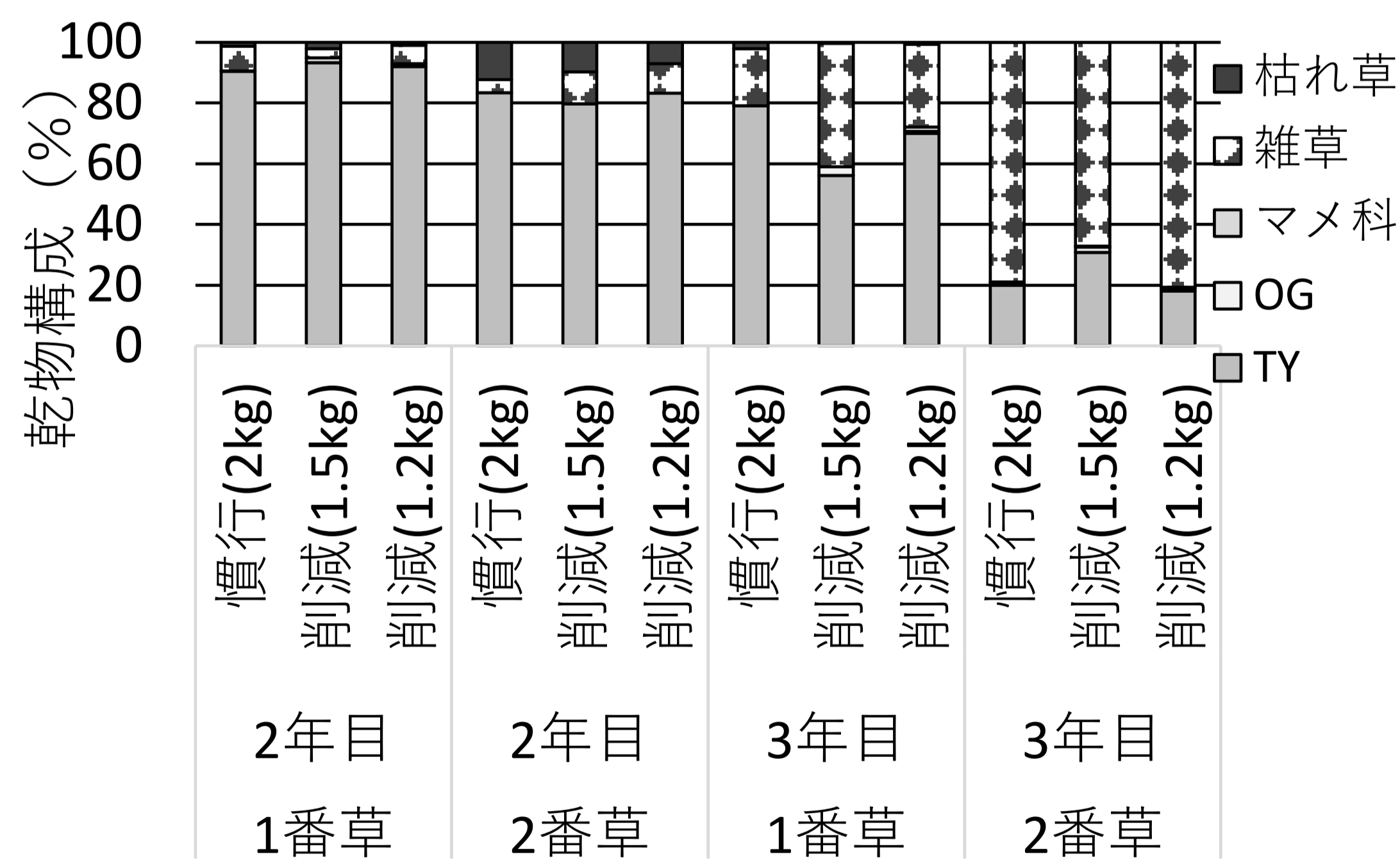


- ・ロータリ整地後の播種
- ・播種機一体の鎮圧のみでは鎮圧不足



- ・追加の鎮圧でTY個体数UP

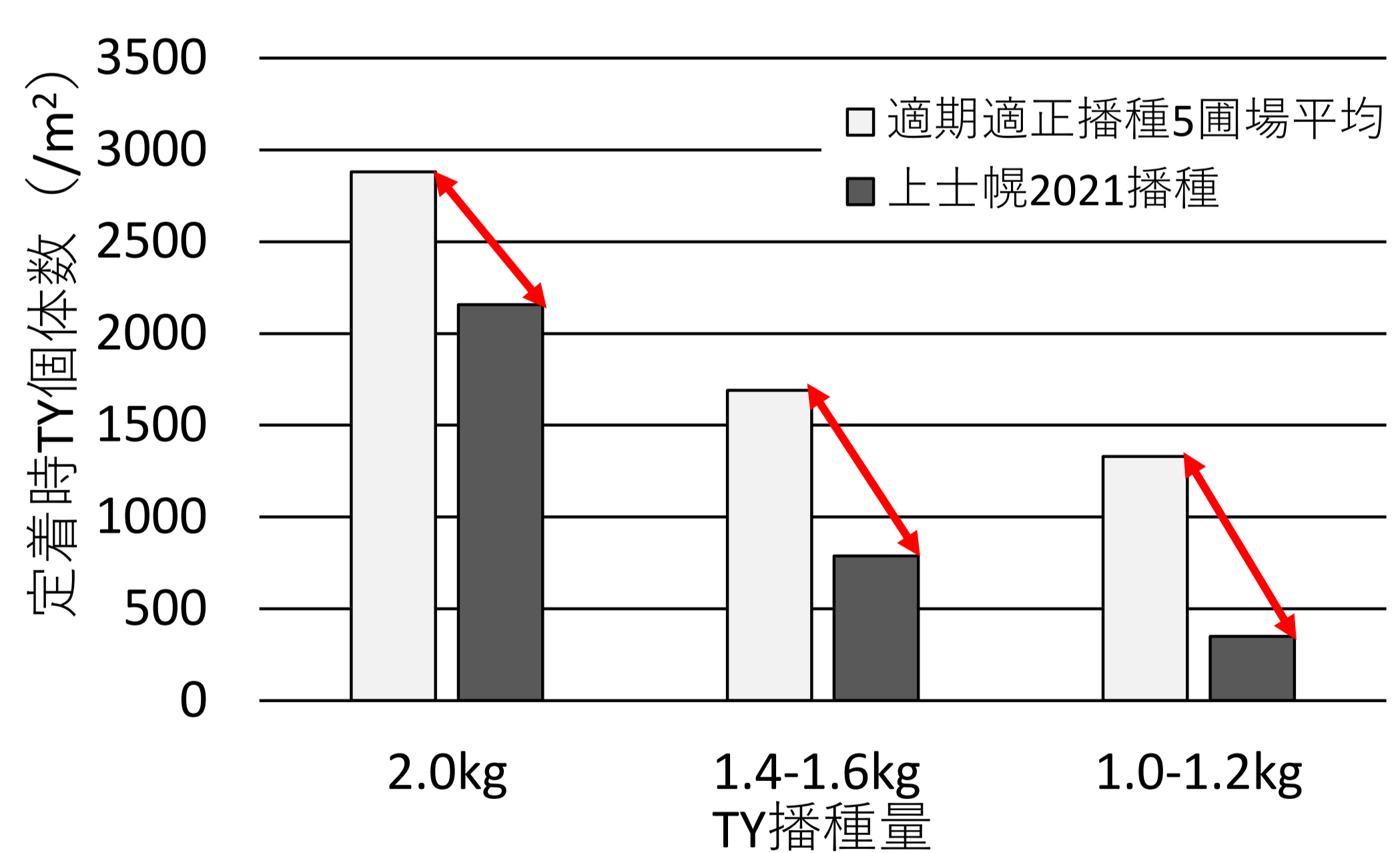
除草は大切！



前植生リドカリグラス（RCG）の圃場を前植生処理のみ（播種床処理なし）で更新

3年目にはRCG主体草地に埋土種子が予想される草地では**播種床処理は必須**

播種床は大切！



播種床処の状況が悪いとTY個体数減少

播種床処理のために雑草を発生させたが、期間を置きすぎたため過繁茂（上土幌2021播種）。播種した牧草種子が一部で土と接することが出来ず、出芽定着数が減少。

問い合わせ先

十勝農業改良普及センター
0155-67-2291

畜産試験場 技術普及室
0156-64-0626
spchikusan@hro.or.jp